

---

演題名 臨床医の立場から見た肝臓（肝障害）と健康食品について

氏名 ○伊藤 弘康

所属 岐阜大学大学院医学系研究科 病態情報解析医学

---

数年前、厚生労働省科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業の一環として、「いわゆる健康食品の健康影響と健康被害に関する研究」というテーマにて、アンケート調査が行われた。「いわゆる健康食品」により肝障害を発症した事例についての全国調査を行い、原因と考えられる健康食品とそれによる肝障害の実態についての正確な把握を試みるのが目的であった。方法は、日本肝臓学会評議員の在籍施設への健康食品による肝障害に関する全国アンケート調査から得られた 34 例の報告例に、2004 年肝臓学会大会でのワークショップでの報告例 45 例を加えた計 79 例を対象として解析を行った。健康食品による肝障害の報告事例は、比較的高齢、女性の報告例が多く、肝細胞障害型、急性型が多いことが明らかとなった。原因と考えられた健康食品は多岐にわたっていたが、ウコンを含む健康食品が最も多かった。多くは寛解・軽快に至ったが、死亡も 2 例報告された。平成 16 年～18 年の研究協力施設（5 施設）における発生事例についての調査でも 21 例が報告され、背景因子、肝障害のタイプなどの傾向は全国調査と同様であった。原因食品は、前述の全国調査と同様にやはり多岐にわたっていた。多くの健康食品が肝障害発症について一定の危険性を持つこと、安易に健康食品に頼らぬことなどについて、一般への啓蒙が必要と思われた。

次に、上記アンケート調査の結果を基にして、健康食品の肝障害における影響について動物実験を用いて検証を行った。アンケート調査では、ウコンを健康含む食品が肝障害の原因となることが多かったため、ウコンの主成分であるクルクミンについて、肝障害発症時と肝再生時のクルクミンの影響についてマウ

スを用いて検討した。

B 型肝炎ウイルスキャリアのモデルマウスおよび正常マウスへのクルクミンの投与実験では肝障害の出現は両者とも全くみられなかった。しかしながら、B 型肝炎ウイルスキャリアのモデルマウスへウイルス抗原特異的な細胞障害性 T 細胞を移入して惹起する急性肝炎モデルでは、クルクミン投与群の方が、非投与群に比べて肝障害の程度が強い傾向にあった。すなわち、肝障害が誘発されている場合、クルクミンの投与はその肝障害をさらに悪化させる可能性があることを示唆しているものと考えられた。次に、肝再生へのクルクミンの影響を、マウス部分肝切除モデルを用いて検討した。クルクミン投与群の方が、非投与群に比べて部分肝切除後 3 日目の残存肝の重量が減少しており、肝細胞の再生を抑制している可能性が示唆された。これは、クルクミンによる肝再生に必要とされるサイトカインなどの産生抑制作用によるものかもしれない。

今回、健康食品による肝障害について、全国調査による検討および肝障害マウスモデルによる解析により検討を行った。全国調査の結果では、原因と考えられる健康食品は多岐に渡り、多くの場合、軽快しているものの、中には重篤な経過をたどり死亡にいたる例もみられた。一方、クルクミンについて解析した肝障害・肝再生マウスモデルでは、投与により増悪傾向になる可能性が示唆された。これらは、国民の健康に関わる重要な問題であり、さらに詳細な調査、肝障害発症機序の究明、健康被害の拡大を防ぐための一般への啓蒙が必要と考えられる。